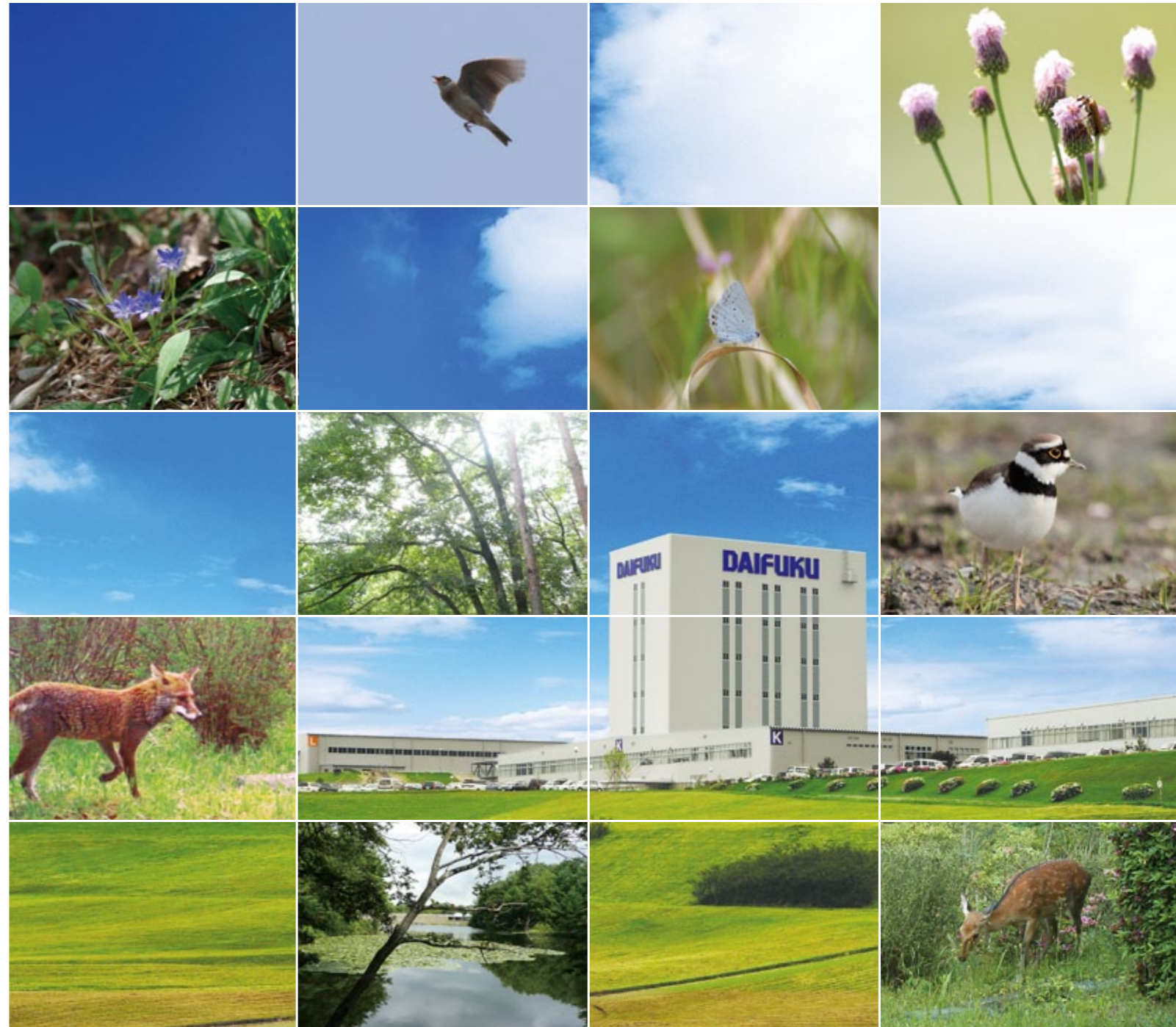


株式会社ダイフク
www.daifuku.co.jp



私たちは、マテリアルハンドリングの総合メーカーとして培った技術とノウハウをベースに、これまで以上に幅広いソリューションを提供し、お客さまや社会の変革に一歩進んだ技術でお応えできるよう、“マテハンメーカー”から“バリューイノベーション企業”へと進化することを目指しています。明日を、未来を、新しく。ダイフクは常に革新を続けます。

バリューイノベーション企業を目指して



Always an Edge Ahead

新たに掲げたブランドメッセージです。最適なソリューションを創造し提供することで、お客さまに「著しく優位な立場」をもたらしたいという思いと、発想力と行動力に秀でたプロフェッショナル集団として、たゆまぬ挑戦と変革を続ける私たちの姿勢を表しています。

ブランドメッセージに込めた3つの思い

- ▶ お客さまへの Always an Edge Ahead
ダイフクは、お客さまに“競争優位”を提供し続けます。
- ▶ ダイフク自身に対する Always an Edge Ahead
ダイフクは、常に先端技術を追求めし“競争優位”を持ち続けます。
- ▶ 社員一人ひとりの Always an Edge Ahead
私たちは、たゆまぬ挑戦と変革を続けていきます。

トップメッセージ	ステークホルダーの皆さまへ	1
＜特集＞	バリューイノベーション企業への進化を目指して	
	イノベーションの軌跡	3
	いまを支える	5
	未来を創る	13
	CSRマネジメント	15
	ダイフクとつながる人々	
	チームで育むダイフクパーソン	17
	お客さま	19
	社員	20
	株主・投資家	21
	サプライヤー	22
	地域・社会	23
	環境は次世代のために	24
	第三者意見	30
	ダイフクプロフィール	31

ダイフクは、 バリューイノベーションの芽を 世界各地で育てています。

代表取締役社長

北條正樹

Masaki Hojo



新しい価値を創造し、お客さまのために、社会のために

当社は75年以上にわたってマテリアルハンドリング(マテハン)システム・機器、さらにはさまざまな製品を通じて産業界や社会に貢献してまいりました。現在では、グローバルに展開し、グループとして世界各国・地域にお客さまを得ており、海外売上高比率は50%を超えています。また、約7,000名を数える社員も現地スタッフが半数以上を占めるまでになっています。

CSRの側面では、社業を通じてお客さまの企業活動を効率化し、人々の暮らしがより便利に、より豊かになることを願い事

業を展開しています。そのためにも、マテハン分野で培った実績とノウハウを生かして「イノベーション」を起こし続けていきたいと考えています。

さらに行動指針においては、社会的に一層高い信頼を獲得できるよう、法令遵守を中核に据えた「企業行動規範」を定めています。グローバルカンパニーであることを強く自覚し、世界中の社員一人ひとりがステークホルダーと真摯に向き合い社会貢献を果たすことを目指してまいります。

経営理念

1. 最適・最良のソリューションを提供し、世界に広がるお客さまと社会の発展に貢献する。
2. 自由闊達な明るい企業風土のもと、健全で成長性豊かなグローバル経営に徹する。

中期4カ年経営計画「Value Innovation 2017」について

2017年3月期の連結経営目標を「売上高2,800億円、営業利益率7%」とする、中期4カ年経営計画「Value Innovation 2017」を策定し、この4月からスタートしました。来たる2017年5月の創立80周年を輝かしい節目とすべく、全社一丸となって取り組んでいくとともに、「マテハンメーカー」から「バリューイノベーション企業」へと進化を遂げることを目指してまいります。

創業以来、当社は日本の経済発展とともに省力・省人化に貢献する製品において、技術革新や新製品開発に力を注ぎ、それ

によりお客さまから高い評価をいただけてきました。また、グローバル展開においては、既に世界20の国と地域に拠点を配置するなど事業の礎は整えてきました。中期経営計画では「事業領域」「収益性」「ブランド力」「経営効率」をテーマに掲げています。特に事業領域については、新たな事業・市場の開拓、アジアや米州を重点に世界各地で事業の発展を図り、全社をあげてバリューイノベーションの芽を育てています。

中期経営計画4つの注力テーマ

- | | | | |
|-------|--------------|---------------|--------------|
| 事業領域 | ①新規事業・新市場の開拓 | ②グローバルビジネスの推進 | ③既存事業の拡充 |
| 収益性 | ①提供価値の向上 | ②コスト競争力の強化 | ③ICT*による事業強化 |
| ブランド力 | ①社員意識の改革 | ②顧客アプローチの変革 | ③新ブランドの構築 |
| 経営効率 | ①経営資源の活用 | ②財務体質の強化 | ③業務の効率化 |

* ICT : Information & Communications Technology

“DAIFUKU” ブランドへの思い

中期経営計画の策定とともに理念体系の再構築を行いました。社是「日新(Hini Arata)」のもと、新たに経営理念、ブランドプロポジション、ブランドメッセージを定め展開しています。

ブランドとは、人々の心の中に形成される信頼や期待であるといわれています。これを前提にDAIFUKUのブランドを表すと、「付加価値のある製品、サービスや情報などを提供することにより、お客さまからの信頼や期待に応え続けること」に至ります。

当社のブランド力は「新しい市場の開拓や新規のお客さまを獲得していくためのブランド力」と「時代の変化に伴って既存のお客さまのさまざまなニーズに応えるブランド力」の2つの見方があります。これらのブランド力を継続的かつ持続的に維持・強化していくための努力を積み重ねていく考えです。

ブランドメッセージ「Always an Edge Ahead」は、お客さまに対する思いと、当社のあるべき姿の両面を表しています。当社が提供している製品・サービスなどの価値がお客さまのニーズにしっかりとフィットし、お客さまの競争優位性(competitive edge)につながるものでありたい、という思いと、自由な発想と行動に秀でた個性のある社員が集い、挑戦と変革を続けていく姿を重ねています。

お客さまのニーズにあった製品・サービスをいち早く提供し、オンリーワンのパートナーとしてお客さまから「一緒にやってみよう」と感じていただけるように努めてまいります。そして、バリューイノベーション企業として、今後も技術革新やサービス創出に挑戦し続けることで“ワクワク、ドキドキ”するような未来に向けた新たな価値の創造を果たしていきます。

戦前から戦後復興期へ

1937
大阪市西淀川区に社員150人で発足。製鉄用の鍛圧機械を中心に製造

当時の御幣島工場(1939年)

1947
人手による高積み作業を解消した移動式搬送機

1953
輸入穀物の荷揚げで画期的な設備となったコンベヤ

1957
オートメーションシステムの先駆けを担った国産初のチェンコンベヤ

高度成長期の飛躍の時代へ

1959
日本初の乗用車専門工場へ納入したチェンコンベヤ

1963
国産初のボウリングマシン

1965
日本初の無人搬送車

1966
日本初の建屋一体型自動倉庫

1969
日本初のコンピュータオンライン制御によるパレット自動倉庫

1972
既存建屋にも設置可能なユニット式自動倉庫を開発

1973
中小物品用のケース自動倉庫を開発

1976
日本初のスチールベルトタイプの自動仕分け機

1977
マイコン制御を搭載した洗車機の生産を開始

1982
世界最先端のモータ工場にFAシステムを納入

1984
半導体製造の本格化に先駆けクリーンルーム向け搬送システムを開発

システム化の時代へ

1988
ICカードと光伝送を用いた日本初のピッキングカート

1989
パレット上に乗り込んで組立作業を行う自動車組立搬送システムを開発

1992
DA分野参入を期し開発したインテリジェンス台車式の自動仕分けシステム

1993
世界初の非接触給電によるモノレール搬送システム

1994
日本初の省エネタイプの無人搬送車

1999
免震自動倉庫を初納入

2002
国内最大の書籍保管・搬送システム

2003
液晶ガラス基板の枚葉搬送システムを開発

FAからDAへ、さらにSCMを背景に――

2004
世界初の電車搬送方式の自動車塗装システム

2004
世界最速、走行速度500m/分のケース自動倉庫

2006
1本のレールに2台のスタッカークレーンを備えたケース自動倉庫

モノを動かす技術を、価値を創り出す技術へ

2008
世界初、同一通路でスタッカークレーンのすれ違い走行を実現した高能力ケース自動倉庫

2011
無線表示器と集品箱の一体搬送式のデジタルピッキングシステム

2012
半導体微細化に対応したクリーンルーム向け保管システムを開発

2012
世界最速、600m/分の空港向け手荷物搬送システム

マテハンメーカーからバリューイノベーション企業へ

FA: Factory Automation DA: Distribution Automation SCM: Supply Chain Management

みやぎ生活協同組合

みやぎ生活協同組合様(本部：仙台市泉区、以下みやぎ生協)は2011年9月、宮城県富谷町に「成田セットセンター」を新設・稼働しました。同センターは、みやぎ生協の冷蔵品およびパン類を取り扱う「生鮮セットセンター」と、東北6県7生協で構成される生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合様(本部：同区、以下サンネット)の冷凍品を取り扱う「サンネット共同購入統一冷凍セットセンター」との複合拠点となっています。

センターには、新開発の無線表示器一体搬送式のデジタルピッキングシステム「eye-navi(アイナビ)」や、オペレーション台車と商品をアソートするカートリッジ台車で構成した「ジャングルカート」を冷蔵・冷凍の各ラインに導入。eye-naviは高頻度品、ジャングルカートは低頻度品の集品に利用します。これにより、集品の生産性を大幅に高めるとともに、これまで難しかった取扱品種の増大にも柔軟に対応できるなど、既存の生協システムにはない特長を持ったものとなっています。さらに、センターには太陽光発電、電気自動車の充電スタンド、LED照明などを採用し、環境面にも配慮しています。

安全・安心な食品をスピーディに組合員へ、新拠点の稼働で共同購入ならびに個人宅配のセット業務の効率化を実現しました。

集品生産性を大幅に向上した「eye-navi」

安全・安心な食品をスピーディに組合員へ。
個配事業の拡大を図る



成田セットセンター



宮城県富谷町



冷蔵ラインのeye-navi。棚と集品箱の表示器を連動させて集品作業を行う



集品箱の表示器にはオーダNo.や検品情報を表示できる

Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.

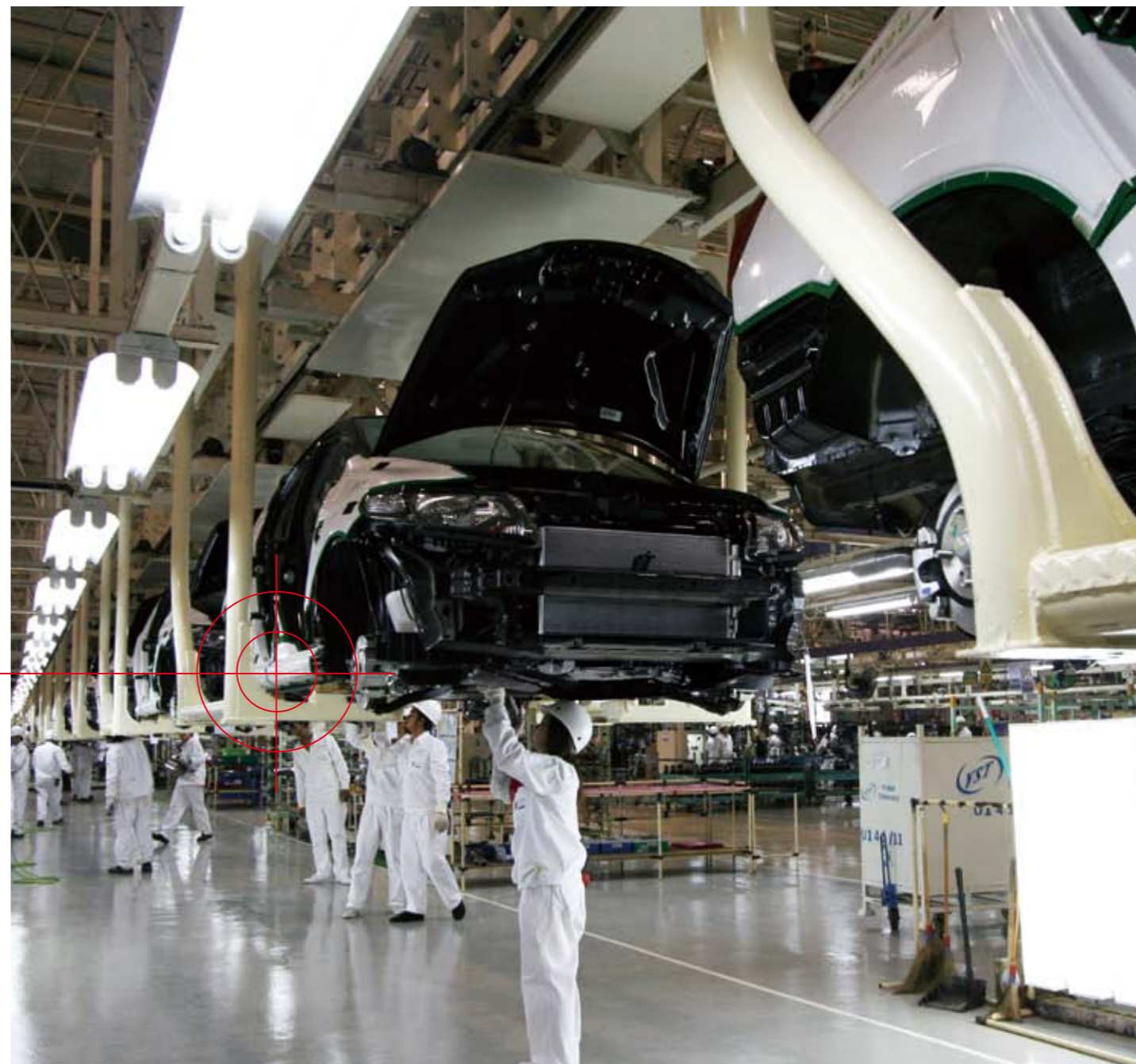
Honda Automobile (Thailand) Co., Ltd.様(本社:アユタヤ県)のアユタヤ工場は、年間24万台の四輪車を生産するホンダグループの東南アジア最大の拠点です。同工場は1996年4月に第1工場を稼働して以来、2003年に生産ラインを増強し生産能力を倍増。2008年には敷地内に第2工場を新設して、1日1,000台の生産能力を有する規模となりました。生産車種は、稼働当初からの「シティ」「シビック」「CR-V」「アコード」のほか、2003年11月に「ジャズ(日本名:フィット)」、2011年3月にアジア向けに開発されたコンパクトカー「プリオ」をラインアップし、全6車種となっています。

2011年10月、未曾有の大洪水で被災し、工場の生産が止まるだけでなく、タイから輸出する完成車や部品の供給がストップし、日本や北米の市場にまで影響を及ぼしました。同年9月に1日1,000台のフル生産を実現した矢先の出来事で、水没した工場の設備は大幅な刷新を余儀なくされ、新工場建設と変わらないプロジェクトとなりました。2012年3月末には、この甚大な被害からわずか6カ月という驚異的なスピードで生産を再開し、4月よりフル稼働しました。

今後アユタヤ工場では、ホンダでアジア初となるハイブリッド車の生産なども手掛け、アジア市場の経済発展に大きな役割を果たしていきます。

自動車生産ラインシステムのサポート力

驚異的なスピードで生産を再開し、アジア市場の経済に大きな役割を果たす



エンジンや足まわりの組み付けを行うシャーシラインのチェンコンベヤシステム「パワー&フリーコンベヤ」(長さ450m、キャリア55台)



アユタヤ工場



大洪水により水没したアユタヤ工場

昆明長水国際空港

中国西南部に位置しベトナム、ラオス、ミャンマーと国境を接する雲南省の省都・昆明市で2012年6月、中国4番目の規模となる昆明長水国際空港がオープンしました。ダイフクグループのLogan Teleflex (UK) Ltd.(本社：イギリス)は、中国の現地資本との合弁子会社・昆明昆船選根機場物流系統有限公司を通じて、「チルトトレイソーター」をはじめとする手荷物搬送システムを納入しました。

新空港は昆明市中心部から北東へ約25km、市内と結ぶ高速道路が整備され所要時間は車で30分ほど。長さ4,000mの滑走路2本を有し、ターミナルビルは南北855m、東西1,135m、高さ73mの規模を誇ります。システムの中核を成すチルトトレイソーターは2系統あり、国内線・国際線どちらの手荷物も時間当たり1万個を処理できます。また、早期にチェックインされた手荷物を約500個、一時保管できるストレージラインも設けられています。これら一連のコンベヤシステムの総延長は13kmに及びます。

昆明長水国際空港は年間2,400万人、2020年には3,800万人の旅客利用を見込んでおり、今後の拡張時には空港中央の手荷物搬送システムとターミナル端の離れたゲート間を高速でつなぐ台車搬送システム「DCV(Destination Coded Vehicle)」の導入を予定しています。



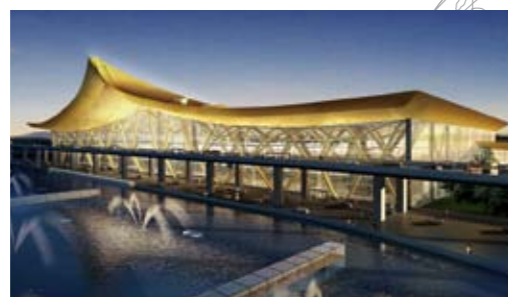
コンベヤライン。16カ所のチェックインアイランドを4つに区分し、どの系統がすぐに判別できるように色分けしている

Innovation
時間当たり1万個を処理する
チルトトレイソーター

Value
年間2,400万人の旅客へ
安全で快適な空の旅を提供



2系統・全長580m、計532トレイのチルトトレイソーター



メインターミナル



中国・雲南省昆明市



メインターミナル3階の発出口ビー。チェックインアイランドは国内線12、国際線4の計16カ所を備える

Meyer Corporation, U.S.

1981年創業、米国最大の調理器具メーカーMeyer Corporation, U.S.様(本社：カリフォルニア州バレーフォ)。ステンレス、硬質アルマイト、フッ素樹脂加工のフライパンや鍋などを自社工場にて年間4,200万個製造し、調理器具としては世界第2位の生産量を誇ります。現在30カ国以上で販売され、日本においても「マイヤー」の名で広く知られています。

フェアフィールド物流センターでは2010年3月、ダイフクアメリカのシステム設計により同社初となる自動倉庫を導入。保管能力の増強とともに、米国全域への商品供給の効率化を図りました。

パレット自動倉庫の規模は、高さ30m、スタックークレーン12基。棚の奥行き方向に2パレット保管できるダブルディーブ構造にすることで高密度保管を図り、6万6,000パレットを格納できるようにしました。この保管能力は西海岸で最大規模となっています。自動倉庫導入で倉庫集約による物流コストの削減、保管・処理能力の大幅アップを実現しました。事業成長を見据えた設備増強は出荷能力を倍増し、今後の需要拡大による物量増加にも対応可能です。



スタックークレーン12基すべてがダブルディーブタイプ

ダブルディーブタイプの自動倉庫

西海岸最大の保管能力。
倉庫集約によるコスト削減と
米国全域への商品供給力を強化



フェアフィールド物流センター



米国・カリフォルニア州
フェアフィールド

ICA Sverige AB

スウェーデンを中心に2,100以上の店舗を展開する北欧最大手の食品スーパー ICA Sverige AB様(本社：ストックホルム)は、独自の調達・供給体制や消費者ニーズに適応した業態開発により、常に「高品質で値ごろ感のある商品」を提供しています。

サプライチェーンの中核機能を果たす物流拠点においては、再整備を構想し2006年、同国南部の都市ヘルシンボリに域内最大級となる物流センターを新設。2011年5月にはマテハンシステムの全面運用をスタートし、一層効率的な体制を整えました。マテハンシステムは自動倉庫を中心に各種コンベヤ、重量棚、仕分け装置などで構成。システム全体の構築をダイフクとダイフクヨーロッパが共同で担いました。

新センターは、経営の効率化を目指す新たな物流拠点構想に基づき、同社店舗のおよそ3割を有する南部地域に点在していた9カ所の倉庫を集約、統合したものです。常温(ドライ)、青果・冷蔵(フレッシュ)、冷凍(コールド)の3温度帯のエリアを備え、アイテム総数5,000超の商品を一括処理する、総合物流センターです。



入荷商品を搬送する高速搬送台車。ループ式で29台



スタックークレーン13基、2万6,000パレット格納の自動倉庫

3温度帯の物流センター

北欧最大級の拠点。
マテハン自動化で一層効率的な
物流体制を構築

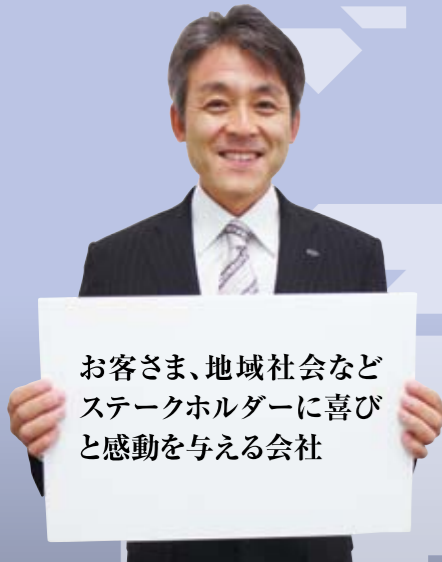


ヘルシンボリ物流センター



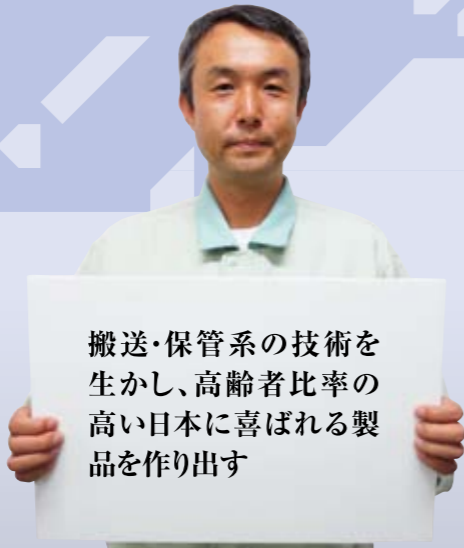
スウェーデン・ヘルシンボリ

自由な発想と行動に秀でた人々、ダイフクはそんなプロフェッショナルの集団です。
次代を担うダイフクパーソンが、将来の会社の姿をそれぞれの思いで語りました。



お客さま、地域社会など
ステークホルダーに喜び
と感動を与える会社

FA&DA事業部 営業本部
名古屋支店
伊藤 裕明



搬送・保管系の技術を
生かし、高齢者比率の
高い日本に喜ばれる製
品を作り出す

eFA事業部 FPD本部
CS部 サービスグループ
徳村 学



I would like to strengthen
DAIFUKU as an employer
brand and to become more
aware as a brand and
company in the
minds of potential
employees.

DAIFUKUブランドが浸透し広く認知され、ダイ
フクで働けることをもっと誇りに思える会社

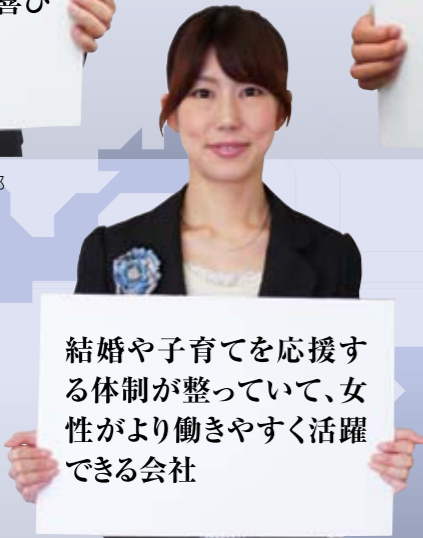
Daifuku Europe Ltd.
Administration & Accounting
Julia Hager



Pursues business
opportunities in new
markets and proactively
undertakes international
projects.

未開の地まで仕事の可能性を追求し、海外
プロジェクトに取り組む会社

FA&DA事業部 営業本部
海外2部
Andrey Kras



結婚や子育てを応援す
る体制が整っていて、女
性がより働きやすく活躍
できる会社

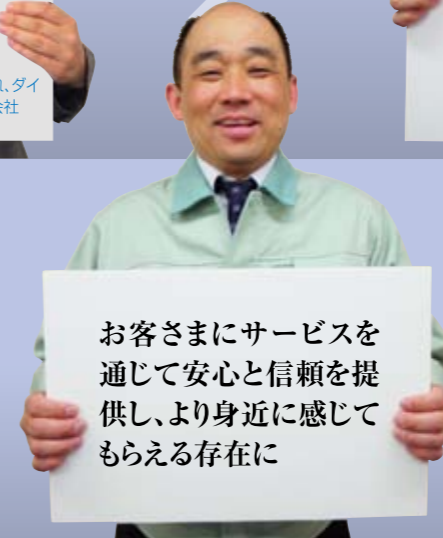
株式会社日新館
運営グループ
西本 知子



I would like to see the company
groups grow in such a way as
to allow the corporate
members within the groups to
remain competitive and flexible
in their market sectors.

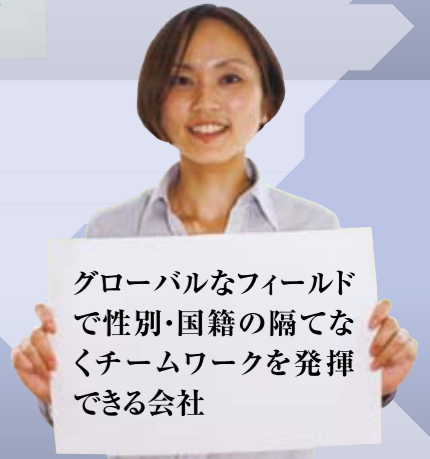
ダイフクグループがそれぞれの分野において、
競争力や優位性を保ちつつ成長してほしい

Jervis B. Webb Company
Smart Handling Software
Nick Ellens



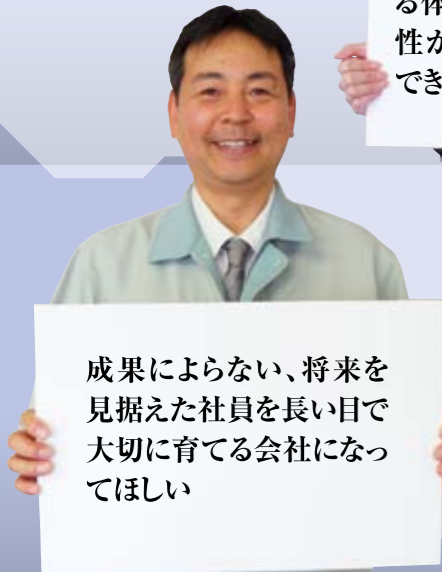
お客さまにサービスを
通じて安心と信頼を提
供し、より身近に感じて
もらえる存在に

FA&DA事業部 DTS本部
東京第1カスタマーステーション
安藤 富士雄



グローバルなフィールド
で性別・国籍の隔てなく
チームワークを発揮
できる会社

経理本部
国際業務部
桑原 知里



成果によらない、将来を
見据えた社員を長い目で
大切に育てる会社になっ
てほしい

BCP推進本部
安全推進部 滋賀グループ
横田 哲朗



永遠领先一步、
增强公司的研发成
果转化能力

常に一步先へ。
研究開発成果をいち早く製品化する
力を持つ会社

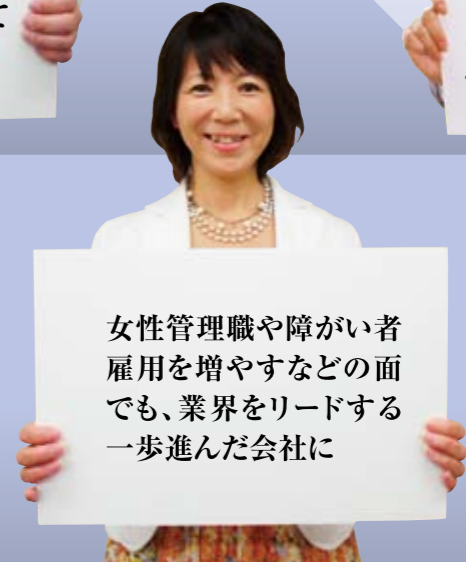
大福(中国)物流設備有限公司
品質保証部 品質管理課
陸 玉紅



A company where not only
our equipment is always an
edge ahead, also our training
tools and resources are
always an edge ahead.

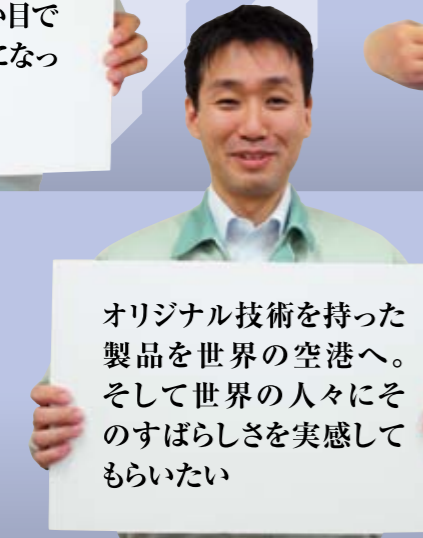
業界最先端の設備の提供を目指すだけでは
なく、われわれ自身のスキルを高めるために最
新鋭の社内インフラツールを確保する会社

AFA事業部
グローバル営業部 欧米グループ
Jesus Gomez



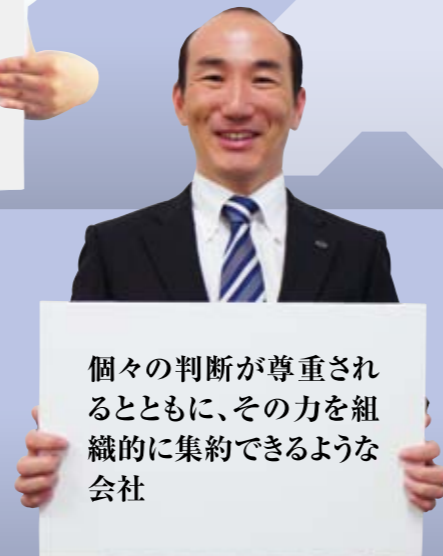
女性管理職や障がい者
雇用を増やすなどの面
でも、業界をリードする
一步進んだ会社

株式会社ダイフクプラスモア
人財部
菅浦 円



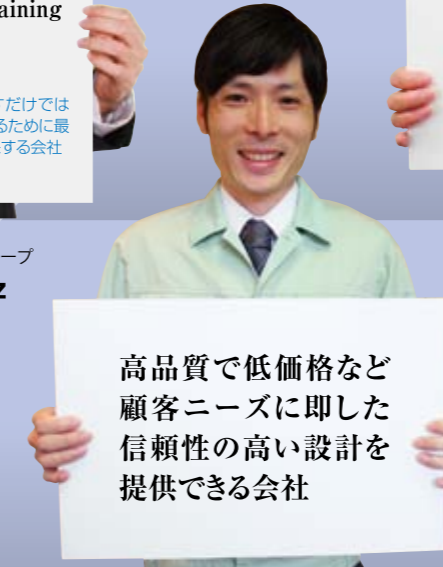
オリジナル技術を持った
製品を世界の空港へ。
そして世界の人々にそ
のすばらしさを実感して
もらいたい

ABH事業部
生産部
磯村 琢也



個々の判断が尊重され
るとともに、その力を組
織的に集約できるような
会社

eFA事業部 半導体本部
営業部 EGグループ
森本 雄一



高品質で低価格など
顧客ニーズに即した
信頼性の高い設計を
提供できる会社

AFA事業部 テクノサービス本部
設計部 関西設計グループ
堂山 鉄朗



Communicates
corporate information on a
global scale through
established relationships
with international media.

海外メディアへのPRを充実させて、ダイフクの
さまざまな情報をグローバルに発信する会社

CSR本部
広報部 報道グループ
Colin Ludlow



ESGの観点から「バリューイノベーション企業」への進化を推し進める

取締役 常務執行役員
本社部門長 兼 CSR本部長 兼 BCP推進本部長
本田 修一

ダイフクグループのイノベーションの源泉は「人」と「現場」にあり、CSR活動の原点といえるものです。この2つを一層高めるための「人づくり」「現場力サポート」を重要課題として取り組んでいます。例えば、本レポートでもご紹介している新入社員から役員、年齢・キャリア・地域に応じた人材育成制度や、社内の小集団活動、サプライヤーさまに向けた表彰制度などがそうした取り組みの一端です。

企業の価値や社会的責任が、E（Environmental：環境）、S（Social：社会）、G（Governance：統治）の視点で問われる昨今——。当社は、中期経営計画で「バリューイノベーション企業への進化」を目指しており、4つの注力テーマを掲げています。これらテーマは目標達成への課題ですが、どのテーマにおいてもESGの観点を持ち推進していきたいと考えています。それは、まだまだ世界各地には経済発展の余地が多くあり、地球規模で持続可能な社会を構築していくことが結果的に、当社を取り巻くステークホルダーに喜びをもたらすものと信じているからです。まずは、当面のゴールである創立80周年を輝かしく迎えられよう、また、社会の一員として企業の責任を果たすべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

ブランドブック「our brand」の発行 ～企業行動規範の徹底～



当社グループのすべての役員および社員が、その使命と役割を自覚し、広く社会に貢献するために遵守すべき基本的事項として、企業行動規範を制定しています。

2013年5月には、新たに掲げたブランドメッセージ「Always an Edge Ahead」のもと、当社のブランド力を強化していくために社員一人ひとりが進むべき方向を示したブランドブック「our brand」を全社員に配布しました。冊子には当社のブランドに対する思いをはじめ、社是や経営理念、企業行動規範を盛り込んでいます。

日本語のほか英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、タイ語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の9言語で作成し、グループ全体でブランド・CSR意識の向上を図っています。

企業行動規範は、ウェブサイトに掲載しています。

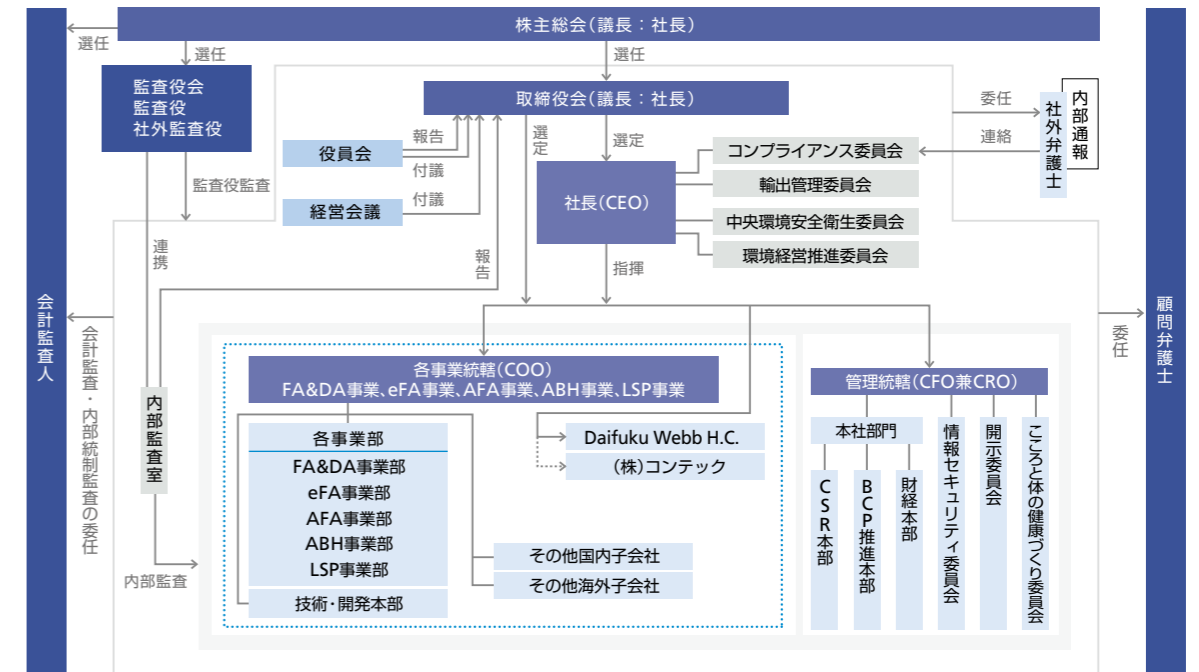
www.daifuku.co.jp/company/profile/ethics.html

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「最適・最良のソリューションを提供し、世界に広がるお客さまと社会の発展に貢献する」、「自由闊達な明るい企業風土のもと、健全で成長性豊かなグローバル経営に徹する」という経営理念に基づき、企業の社会的責任を果たしてまいります。コー

ポレート・ガバナンスはこの使命遂行を支える基盤であり、その体制整備をたゆまず進めていきます。

なお、コーポレート・ガバナンスに関する報告書は、ウェブサイトに掲載しています。www.daifuku.co.jp/ir/governance.html



注：FA&DA:一般製造業・流通業界向け、eFA:エレクトロニクス業界向け、AFA:自動車業界向け、ABH:エアポート向け、LSP: ライフスタイルプロダクツ

人材育成制度

人材育成を効果的に推進するため、ダイフクグループ全体の人材育成方針を策定し、体系的かつ重点的な施策を展開しています。新入社員、中堅社員、マネージャー職などの階層別研修を行っているほか、事業部幹部を育成するNBL（ニュー・ビジネス・リーダー）研修を実施しています。また、社内でのTOEIC試験の実施に加え、グローバルセンスを持った海外勤務候補者の早期育成を図る海外ビジネスリーダー制度も設けています。



新入社員研修の様子

企業行動規範 基本方針

■ 企業活動を通じた社会への貢献

ダイフクは、環境・安全を重視し、快適で豊かな社会に役立つ製品・システムを開発、提供します。

■ グローバルカンパニーとしての自覚と法令・社会規範の遵守

ダイフクは、グローバルな視点で国際基準やルールを積極的に取り入れるとともに、国内外の関係法令および社会規範に則った公正・透明な企業活動を行います。

■ ステークホルダーからの信頼

ダイフクは、株主、顧客、協力会社、社員等のステークホルダーを尊重し、健全で良好な関係を築きます。

■ 地域社会への貢献

ダイフクは、良き企業市民として、積極的に地域社会に貢献します。

■ 社員の人格・個性の尊重

ダイフクは、自由闊達な明るい企業風土の醸成のため、社員の人格・個性を最大限尊重します。

チームで育むダイフクパーソン

次代を担う人材育成を目的としたさまざまな施策を展開しています。また、チームの取り組みや活動を通じて、社員一人ひとりへダイフクの良き企業文化である「現場力」や「固い結束力」、そして「モノづくり精神」「技術・技能」を伝承していきます。

グローバルリーダーシップ研修

ダイフクグループの海外現地法人の幹部社員・候補社員のスキルアップを目的とした研修を2012年11月に開催。今回で2回目を数え、アジア地域を対象に中国、韓国、インドから6名が来日しました。研修内容は当社役員による講義に加え、与信管理、情報セキュリティ、人材育成など多岐にわたり、滋賀事業所や納入先見学も実施しました。また、国内の幹部候補生との交流の場を設け、意見交換を行いました。コミュニケーション力を養い、培ったスキルを現地でのグループシナジーの創出に役立てていきます。



日に新たな館での研修を中心に7日間行った。

あなたの考える“グローバルリーダー像”を教えてください。



中国
邢 伯天
大福(中国)有限公司
FA&DA事業部 エンジニアリング本部長
上司や部下との良好なコミュニケーションができる、異文化を学び理解する、人材を育成し、個人の能力を最大限に引き出すことが求められると思います。



韓国
李 仁烈
Daifuku Korea Co., Ltd.
国内事業部 技術本部 技術1部長
なにかを実行する力、人を導くリーダーシップはもちろん、道徳を備えていることです。加えて柔軟性を持ち、時代の変化に対応して周りの人を導いていけるような人でしょう。



中国
呉 国华
大福(中国)物流設備有限公司
生産本部 製造部長
他国の文化の良いところを自国に取り入れること、人材の育成とチームワークを大切にすること。そして、鋭い観察力と判断力があり、製品知識が豊富で自国だけでなく世界の市場動向がつかめることが必要だと思います。



韓国
金 一雄
Clean Factomation, Inc.
管理本部 総務人事チーム 総務パート長
誠実かつ、倫理意識を備え、揺るがない価値観のある人でしょう。さらに、すすんで部下に模範を示すことで、周囲から信頼を得ることです。



中国
馬 勇騎
大福(中国)自動化設備有限公司
生産本部 設計部長
世界経済の動向を意識しつつ、自らの業務を行える人でしょう。さらに、各国の現地法人の優れた経験や、経営管理手法を吸収していく人です。各国の現地法人と交流し、連携を強化していくことも必要です。



インド
Ashok Kumar Verma
Daifuku India Private Limited
General Manager
これからのリーダーには、1つの分野の専門知識を身につけるだけでなく、あらゆる事業に関する知識が必須です。また、明るく安全な職場環境を作ることに気を配らなければなりません。

小集団活動

小集団活動は、製造現場を中心に作業の効率化やコストダウンを図るため職場ごとに改善・創意工夫を推進するための継続的な取り組みです。年に1度の発表大会では職場で結成された各チームが日々の活動の内容を発表し、成果を競うと同時にさまざまな切り口の改善を他部門に横展開するなど、報告だけでなく次の改善につなげる場にもなっています。

また、発表大会で優秀な成績を収めたチームの中から文部科学大臣表彰「創意工夫功労者賞」に推薦しています。小集団という「チーム」で培われたスキルが「個」への成果につながります。



2013年3月6日に開催された第17回小集団活動発表大会。各部門の118チームから選ばれた8チームに加え、海外現地法人から2チームが特別参加した。

“創意工夫功労者賞”へのステップとしても

同賞は毎年「作業性の向上」「製品の品質向上」「コスト改善」などの考案・改良に努力、貢献した勤労者に与えられるものです。ダイフクグループではこれまで10年連続、累計26名の社員が受賞しています。



馬場 昭
LSP事業部 生産部 ライン組立係
2013年度受賞
洗車機のライン組立の生産性向上
これまでの生産方法を見直すことに不安な思いもありましたが、メンバー全員の強い意志と上司の後押しで新しい生産環境を作り上げることができました。今後もチーム一丸となって既存の設備や生産方法にとらわれず、最適な作業環境づくりを目指します。



山成 秀昭
FA&DA事業部 製造部 構内物流係
2012年度受賞
コンベヤ設備の工事エリア別出荷管理方法の改善
工事現場との出荷情報の共有、出荷管理の仕組みを改善。据付工事の効率アップを実現するとともに、出荷漏れもなくなりました。この賞は、従来、工場の治具や作業性の改善などが中心でしたが、ソフトや仕組みの改善・構築が評価されたことは今後の励みになります。



森本 一樹
AFA事業部 製造部 組立グループ2課
2011年度受賞
自動車塗装システム用アーム組立作業における業務改善
過去に例のない重量物の量産化に向けて、生産ラインの設計から設置まで、チーム一丸となって活動しました。組立だけでなく、治具の考案などのスキルが向上できたことが自身の一番の成果です。次世代のけん引役になれるよう努めていきます。

お客さま

【企業行動規範】顧客の立場に立って、最適・最良の、製品・サービスを提供します。

ソリューションの提案からアフターサービス、リニューアルまで一貫した体制で、お客さまからより一層の信頼を得ることに努めます。

▶▶ 現代自動車グループより
「Supplier of the Year 2012」を受賞



サプライヤー 347社から最優秀サプライヤー 1社が選ばれ、記念の盾が授与された

ダイフク韓国が現代自動車グループ様より設備部門における「Supplier of the Year 2012」を受賞しました。現代・起亜自動車に、高品質の生産設備および最善のサービスを提供し続けてきたことで工場の稼働率向上に大きく貢献しました。特に2012年はすべての案件の据付工事を無事故・無災害で完遂したことが高く評価されました。

▶▶ 洗車機の新製品見学会を開催

2013年2月7、8日に新横浜のイベントホールで、14日には滋賀事業所で洗車機の新製品見学会と洗車ビジネスセミナーを開催しました。石油元売りやサービスステーションのマネージャーなど、洗車業界の関係者約500名が参加されました。



新型洗車機「ツインフェクトフォース」や泡洗車システム「AWA3000」などの特長をアピール

社員

【企業行動規範】自由闊達な明るい企業風土の醸成のため、社員の人格・個性を最大限尊重します。

仕事と生活の調和(ワークライフバランス)に向けた取り組みを推進するとともに、こころと体の健康づくりをサポートしています。

▶▶ 家族見学会を開催



3日間の開催で計 79家族・341名が参加

毎年7月・8月に総合展示場「日に新た館」で行う、社員向け家族そろって見学会。子ども達に、普段なかなか目にする機会のない親の会社の製品を実際に見てもらおうとともに、仕事風景などを写真や映像で紹介しました。また、当社OBによるマジックショーなどを行い、楽しいひとときを過ごしました。

▶▶ “こころと体の健康づくり”をサポート

社員の健康づくりと職場を越えたコミュニケーションの促進の一環として、気軽に参加できる運動イベントを開催。各地区の特性に応じたさまざまなプログラムで“こころと体の健康づくり”をサポートしています。



ミニボールエクササイズ



ソフトボール大会

マテハン・ロジスティクス総合展示場

日に新た館

最新のシステム・ソリューションを体感できる、世界最大級の展示場です。マテハンシステム・機器をはじめロジスティクス関連企業の製品、150種類・400点を備え、実際の動きの確認はもちろん操作体験や導入のための事前テストなどが可能です。

ダイフク主催のセミナーを開催するほか、社員向けの研修や各種イベントにも活用しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。www.daifuku.co.jp/hiniaratakan/ja



導入を検討されるお客さまのほか、各種研修などに利用される



案内を担当する日に新た館スタッフ



自動車生産ライン搬送システム



保管システム



ピッキングシステム



仕分けシステム

▶▶ 産前産後休暇・育児休業への理解促進を図る

当社では、妊娠中や出産後も働き続ける女性社員および育児に取り組む男性社員、そして所属長に対して、産休・育休の制度やスケジュールなどについて理解してもらうため、「産休育休ハンドブック」(PDF版)を作成しました。

2012年度は産休・育休ともに41名が制度を利用しました。



株主・投資家

【企業行動規範】 企業情報の開示については、関係法令を遵守し、適確、迅速、積極的かつ公正に行います。

当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主さまの増加を目指しています。

▶▶▶ 株主さま向け日に新たな館見学会を開催

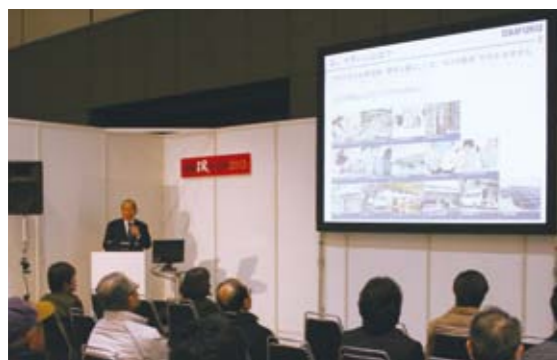


毎回好評の自動車生産ライン搬送システムのデモンストレーション

2012年10月12日、第5回株主さま向け日に新たな館見学会を開催。過去最多の208名に参加いただきました。館内では、当社主要製品に加え、新たに設置したボウリングレーンでプロボウラーによるデモ投球を、洗車機展示場では最新の泡洗車システムをご覧いただきました。

▶▶▶ 東証IRフェスタ2013に出展

2013年2月15、16日に東京国際フォーラムで開催された「東証IRフェスタ2013」に、昨年に引き続き出展しました。社会インフラとしての物流システムの重要性や、新興国での需要の高まりなどを紹介し、当社の成長性・将来性をアピールしました。



当社役員による会社説明会

▶▶▶ 決算説明会を実施

機関投資家、アナリスト向け決算説明会を四半期ごとに開催、2012年度も計4回行いました。代表取締役が業績や今後の見通しなどを説明し、質疑応答を交え当社への理解を深めていただきました。また、スモールミーティング、個別ミーティングを随時実施し、機関投資家やアナリストとの対話の充実を図っています。



東京本社で開催した2013年3月期の決算説明会

▶▶▶ 株主優待制度を導入

2012年度より、株主優待制度を導入しています。全国300カ所以上のボウリング場でご利用いただける割引金券を贈呈しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

www.daifuku.co.jp/ir/stock/dividend.html

所有株式数	贈呈内容
500株以上 2,000株未満	割引金券 1,000円分
2,000株以上 5,000株未満	割引金券 3,000円分
5,000株以上 10,000株未満	割引金券 5,000円分
10,000株以上	割引金券 10,000円分



優待券は当社設備・用品を納入しているボウリング場で利用可能

サプライヤー

【企業行動規範】 協力会社とは、安定的な取引関係を構築し、共存共栄を目指します。

サプライヤー各社と調達基本方針やグリーン調達ガイドラインに基づき取引を行い、一体となってモノづくりに取り組んでいます。

▶▶▶ 経営・生産動向説明会を開催

2013年5月24日、メーカー・商社から加工・工事・サービス・設計・ソフト開発関係まで計166社のお取引先さまを招待し、2013年度の「経営・生産動向説明会」を開催しました。

当社からは社長をはじめ関係役員と生産・工事系の幹部など26名が出席。社長から前期の振り返りと今期の業績見通しや経営方針を説明しました。また、お取引先さまへ中期経営計画の達成に向けて、①安全第一、②環境への配慮（生物多様性保全活動の推進）、③品質向上への取り組み、④原価低減活動への参画、の4点を挙げ、さらなる支援・協力をお願いしました。



業績見通しなどを説明する当社社長

▶▶▶ 優良サプライヤー5社を表彰

当社は「サプライヤー評価システム」を構築し、毎年、物品系（表面処理・加工・制御製作）と工事請負系の優良サプライヤーを表彰する「S.Q.D.賞」を設けています。2013年度は、153社から5社を表彰しました。

【S.Q.D.賞】

株式会社アスカ様、株式会社寺嶋製作所様、東海理研株式会社様、株式会社沼沢工業様、株式会社ハンデン様



受賞企業5社には記念のトロフィーを贈呈

▶▶▶ ULMA社と代理店契約25周年を祝う

2012年11月7日、スペインに本社を置くULMA Handling Systems様の役員をお招きし、東京本社で記念式典を開催しました。ULMA社はスペインを中心にポルトガル、フランス、ブラジルで当社製品の販売とサービスを手掛け、2013年1月で販売代理店契約を締結して25周年になることを記念したものです。



ULMA社の社長（前列左から2人目）を囲んだ記念撮影。会談では市場動向や今後の展開などについて情報交換を行った

地域・社会

[企業行動規範] 地域社会の一員としての責任を果たし、健全かつ安全で快適な地域社会作りに貢献します。

良き企業市民として、積極的に地域と密着した活動を行い、経済・社会双方の発展に寄与する企業であり続けることを目指します。

びわ湖環境ビジネスメッセ2012に出展

2012年10月24～26日、滋賀県立長浜ドームで「びわ湖環境ビジネスメッセ2012」が開催されました。当社グループは地元マザー工場を置く企業として地域とのコミュニケーションを図るとともに、環境関連の製品・サービスを紹介しました。



太陽光発電システムの据付工事・アフターサービスに加えて、コンテックの計測表示システムを紹介

小学生が安全体感道場を見学

2012年12月21日、大阪市西淀川区の小学生など14名が当社「安全体感道場」の見学に訪れました。一般家庭でも起こりうる電気事故の危険性のほか、製造現場での安全対策などについて説明しました。



過電流による燃焼を実演。身近に起こりうる事故への注意を喚起

国内外で各種展示会に出展し、物流システム業界の振興にも貢献

国際物流総合展2012



アジア最大級のロジスティクス展示会に出展。世界最速600m/分の空港向け手荷物搬送システム「バゲージトレイシステム」に加えて、大型スクリーンで事業の広がりや技術力、システム構築力を紹介しました。

CeMAT INDIA 2012



ダイフクインドと共同出展。当社グループの世界展開や自動倉庫の概要を紹介。社会インフラとして要となる物流システムの啓発にも力を注ぎました。

CeMAT ASIA 2012



ダイフク中国が出展。ダイフクグループの総合力や中国での納入事例を紹介したほか、企業の事業発展の原動力の1つとなる“物流”への関心を引き上げました。

ProMat 2013



米国最大のマテハン総合展示会にダイフクウェブ社(米国)が出展。無人搬送車のほか、日本で開発した高能力ケース自動倉庫を展示。米国・日本の技術を連携させたシナジーの高いシステムをアピールしました。

グローバルに 環境経営を推進し、 企業価値向上へつなげる



環境経営推進委員長
執行役員 滋賀事業所長
佐々木 健

ダイフクグループの海外売上高比率は50%以上を占めており、海外拠点のCO₂排出量も国内を上回る状況となっています。この傾向はさらに高まることが予想され、国内だけの環境活動ではなく、海外を含めたダイフクグループ全体での環境経営基盤の強化が課題です。

グループ全体の生産の中核を占める滋賀事業所では「ダイフク環境ビジョン2020」に沿って、環境教育や社員参加型の環境啓発活動、生産活動におけるエネルギー効率の改善や省エネ化投資、独自の認定制度による環境配慮製品の開発推進、大規模太陽光発電(メガソーラー)による再生可能エネルギーの創出、広大な事業所の生態系調査に基づいた生物多様性保全など、幅広く先進的な取り組みを行っていき考えです。また、海外拠点での環境負荷データを環境経営推進委員会で一元的に把握する体制を整え、それぞれの国や地域の環境規制や経済情勢に合った改善活動を推進していきけるようにしました。

豊かな地球環境を持続可能な形で次の世代に引き継いでいくことは、国際社会における企業の社会的責任として極めて重要だと考え事業を展開しています。そうした中、2012年10月には株式会社日本政策投資銀行(DBJ)より物流システムメーカーとして初の「DBJ環境格付」を取得、当社の環境負荷低減活動に対して高い評価をいただいたものだと思います。これからもグローバルな環境経営の展開が当社の企業価値向上に欠かせないものと位置付けて、さらなる取り組みを続けてまいります。

「DBJ環境格付」を取得

当社は、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)より物流システムメーカーとして初の「DBJ環境格付」を取得、これに基づく融資を受けました。

「DBJ環境格付」は、DBJ独自の格付システムにより環境経営度を評価・選定し、3段階の融資条件を設定する世界初の融資制度です。

当社が、製品開発において独自の環境製品基準を策定し、製品の競争力を高めていることのほか、CO₂排出量の削減目標、エネルギーの見える化、滋賀事業所の生物多様性保全などが高く評価され、最高ランクの格付を付与されました。同社からの格付は、2011年の「DBJ防災格付」に続く取得となりました。

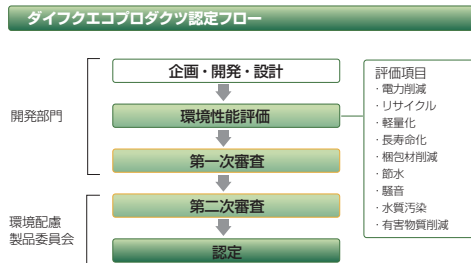


製品・サービスの環境配慮

ダイフクエコプロダクツ認定制度を導入



当社は、独自の基準による製品の環境性能評価・認定制度「ダイフクエコプロダクツ認定制度」を2012年11月に導入しました。これは、「ダイフク環境ビジョン2020」で示した2020年の目標「ダイフク環境基準に適合した環境配慮製品・サービスを開発し、広く社会に提供」を達成するために定めたもの。具体的には、国内外の当社グループの現有製品および今後開発する全製品を対象として、「省エネルギー」「省資源」「公害防止」の観点から、「電力削減」「リサイクル」「軽量化」「長寿命」「梱包材削減」「節水」「騒音」「水質汚染」「有害物質削減」について性能評価し、基準を満たした製品を「ダイフクエコプロダクツ」と認定します。2012年度は7製品を認定しました。



主な認定製品の環境配慮ポイント



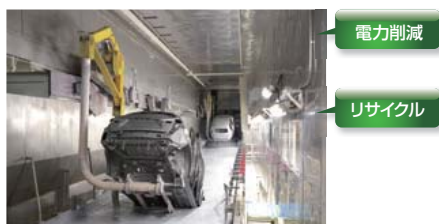
■ ケース自動倉庫「ファインストッカー」

荷物を出し入れするスタッカークレーンの構造を大幅に見直し、従来に比べて本体重量を15%軽量化。これによりモーター容量も1ランクダウンし、消費電力を削減しました。



■ 液晶製造向け保管システム「クリーンストッカー」

非接触給電システムの給電効率を高め、省エネ化。また、スタッカークレーンの減速時や昇降下降時に発生する再生電力をキャパシタに蓄電し使用することで消費電力を削減しました。



■ 電車搬送式塗装システム「E-DIP」

車種ごとに処理液槽への出入槽角度を最適化することで、塗装品質の確保とともに、槽外への液剤の持出し量を低減し、液剤混入による廃液を削減。また、槽の小型化によるライン長の短縮や、構成部材のリサイクル率向上などを実現しています。



■ 門型洗車機「ジズベツト」

洗車能力を保ちながら水使用量を節減し、標準速度で41ℓ/台の洗車を実現しました。また、配線一本から見直した新設計により、本体サイズをコンパクトにするとともに、レール長を従来機と比べて0.5m短縮して、省スペース化しました。

詳細はウェブサイトをご覧ください。www.daifuku.co.jp/csr/environment/env_product.html

環境マインドの醸成

環境経営推進委員会が取り組みを主導

環境経営の視点から将来像を示した「ダイフク環境ビジョン2020」を遂行するため設置した「環境経営推進委員会」。さまざまなテーマで議論を行い施策の決定、推進を図っています。

同委員会では社会情勢や動向などを把握し、活動の一助とするため2013年5月、株式会社日本政策投資銀行の環境・CSR部長 竹ケ原啓介様をお招きし、CSRの現状や外部環境の変化などについてご講演いただきました。また、当社の活動への評価や期待なども述べていただくなど、今後の取り組みを一層拡充する機会となりました。



委員会メンバー34名を集め、日に新たな館・国際会議場で開催

全社をあげて環境意識の啓発活動

○環境ビジョン浸透にeラーニングを活用

全社員を対象とした学習プログラムを実施しました。管理職、一般職などそれぞれの立場に合ったプログラムで環境意識の向上、啓発を図っています。

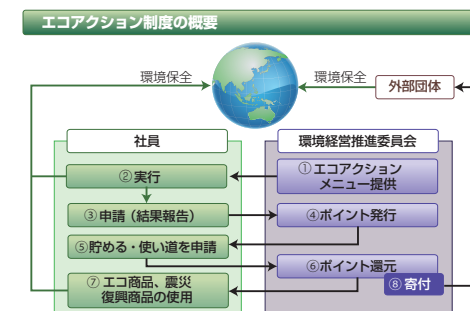


eラーニング受講風景

○エコアクション制度をスタート

2012年度は社員がより身近に環境貢献の実感が持てるように、社員の環境活動に対してエコポイントを付与する「DAIFUKUエコアクション」制度をスタートさせました。各地でエコアクションメニューを用意し、延べ453名の社員がボランティア活動や環境学習に参加しました。

社員が獲得したエコポイントはエコ商品などに交換することができます。その同等の金額を外部団体へ寄付します。



生物多様性講座(滋賀)



外来魚釣りボランティア活動(滋賀)



省エネ講座(東京)

環境保全活動と実績

「ダイフク環境ビジョン2020」に沿った中期的な目標を掲げ、取り組みを行っています。

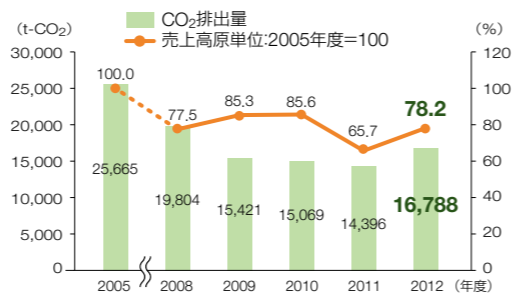
2012年度環境行動プラン・実績

テーマ	項目	内容	2012年度		評価	
			目標	実績		
地球温暖化対策	エネルギー起源CO ₂ 排出量の削減	2005年度比CO ₂ 総排出量	17%削減	34.6%削減	○	
		2005年度比売上高原単位排出量	7%削減	21.8%削減	○	
	製品物流によるCO ₂ 排出量の削減	2005年度比売上高原単位排出量	12%削減	18.5%削減	○	
ファクトリー・オフィス	資源の循環と廃棄物の低減	有価物を含む一般・産業廃棄物の削減	2005年度比売上高原単位排出量	7%削減	2.4%削減	×
		廃棄物のリサイクル化	・リサイクル率98% ・スクラップを除くリサイクル率94%	・リサイクル率98.9% ・スクラップを除くリサイクル率95.3%	○	
環境負荷物質の低減	PRTR法対象物質の排出量削減	グリーン調達促進	グリーン調達システムの浸透	グリーン調達ガイドラインの改定内容を、EDIを通じて全サプライヤーへ周知	○	
		2005年度比売上高原単位排出量	75%削減	68.8%削減	×	
プロダクト	環境に配慮した製品提供	環境配慮型製品の売上拡大	環境配慮型製品売上高比率目標を2010年度に設定	・ダイフクエコプロダクト認定制度を運用開始し、7製品を認定 ・売上高比率目標の不採用を決定	○	
		海外生産拠点を含む環境マネジメントのグローバル展開	グローバルダイフクでの環境パフォーマンス管理	・グループ全拠点の環境データを把握 ・削減に向けた活動は不十分	△	
マネジメント	環境経営基盤の強化	環境教育・啓発の強化	・環境教育の実施 ・実務改善に資する業務別環境教育の実施	・全社環境ビジョン教育は開始遅れ ・ダイフクエコアクション制度開始による啓発実施(延べ453名参加)	△	
		生物多様性への配慮	・社員の意識向上 ・環境貢献活動の実施 ・業務内活動の実施	・外部講師による生物多様性教育実施 ・滋賀事業所内での多様性調査開始 ・外部環境保全ボランティアへの参加	○	

事業活動からのCO₂排出量

事業活動からのCO₂排出量は売上増大に伴い総量は増加しましたが、グループの目標（2005年度比17%削減）に対して34.6%、売上高原単位目標（2005年度比7%削減）についても21.8%と大幅に削減することができました。

これは、全社一体で取り組んだ夏冬の節電活動の強化に加え、滋賀事業所において電力監視システムの導入や、クリーンルーム用の空調熱源変更などの省エネ対策を行なった結果です。環境ビジョンに掲げる目標「総排出量を2020年に2005年比25%削減」の達成に向け、今後もグループをあげて省エネ・節電に努めます。



輸送にかかわるCO₂排出量

2012年度の製品物流に伴うCO₂排出量の売上高原単位は、グループの目標（2005年度比12%削減）に対して18.5%削減となり目標を達成しました。

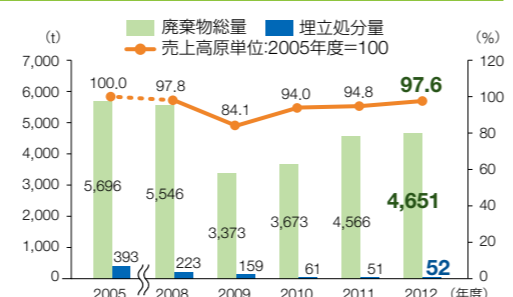
これまで、荷姿や輸送方法の改善、個別輸送から巡回集配輸送への変更、モーダルシフトの採用などの効率的な輸送による環境負荷低減を図ってきました。今後も引き続き改善に取り組めます。



廃棄物排出量

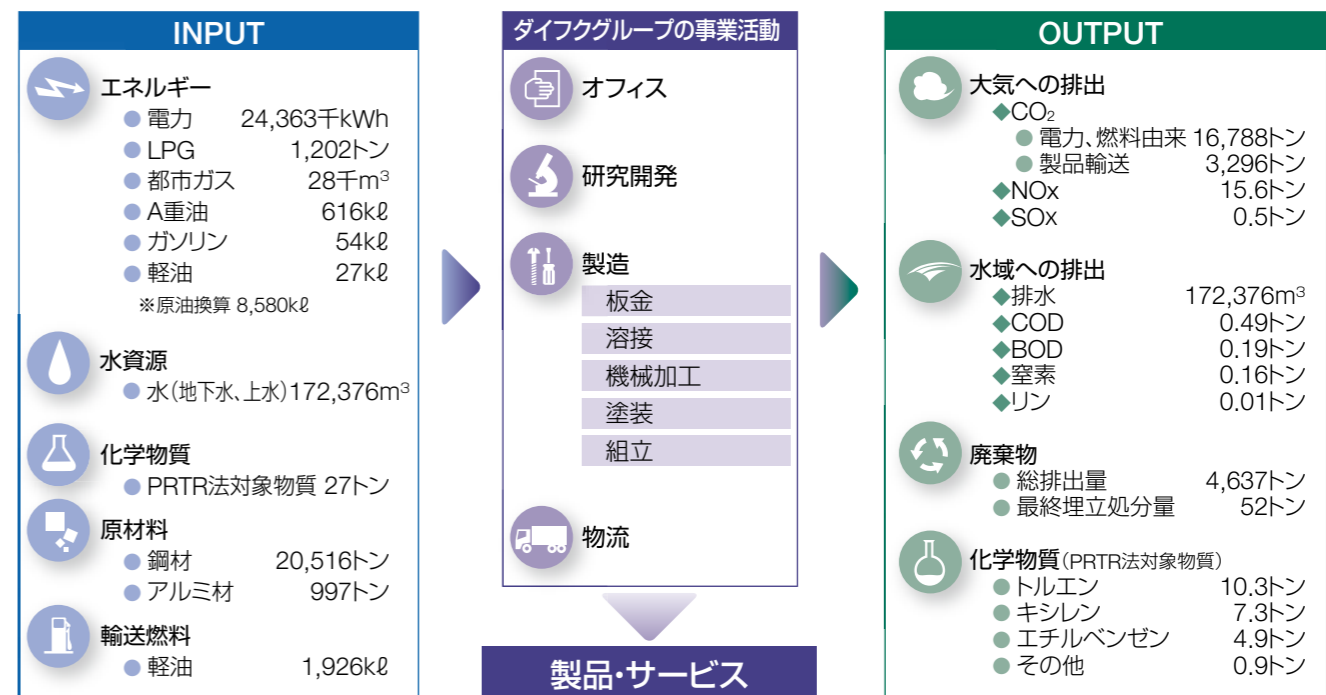
2012年度の廃棄物排出量の売上高原単位は、グループの目標（2005年度比7%削減）に対して2.4%の削減にとどまり未達成となりました。生産量の増加に伴い、鋼材スクラップが増加したことが要因です。

今後、生産工程における材料歩留まりの向上に努めます。一方、廃棄物のリサイクル率目標（98%）に向けた活動では、埋立処分の削減対策により98.9%と当社ゼロエミッション基準（98%以上）をグループ全体でクリアしました。



事業活動のマテリアルバランス

事業活動で発生する環境影響を把握し、環境負荷の改善に努めています。



※詳細データはウェブサイトで公開しています。www.daifuku.co.jp/csr/environment/index.html

環境会計

環境保全にかかわるコストと効果を定量的に把握し、環境会計を実施しています。

環境保全コスト(事業活動に応じた分類)

単位：千円

分類	投資額		費用額			
	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	①大気汚染防止のためのコスト	-	-	46,899	75,759
		②水質汚濁防止のためのコスト	-	2,860	77,101	43,237
		③土壌汚染防止のためのコスト	-	-	-	-
		④振動・騒音防止のためのコスト	-	-	-	-
	地球環境保全コスト	⑤省エネのためのコスト	3,734	123,779	28,454	33,990
		⑥化学物質管理のためのコスト	19,070	-	27,901	26,307
		⑦資源の効率的利用のためのコスト	-	-	11,583	4,395
		⑧産廃、一般廃棄物処理コスト	-	-	85,245	65,138
上・下流コスト	⑨普通の製品とグリーン購入(調達)製品の差額	-	-	1,920	1,920	
管理活動コスト	⑩環境マネジメントシステム運用コスト	-	-	34,968	33,127	
	⑪環境情報の開示、環境広告コスト	-	-	6,391	7,720	
	⑫環境負荷監視コスト	-	-	5,815	2,988	
	⑬社員への環境教育コスト	-	-	5,642	4,566	
研究開発コスト	⑭研究開発コストのうち、環境保全に関するコスト	64,000	64,840	128,000	129,680	
社会活動コスト	⑮自然保護、緑化、美化などのコスト	-	1,470	53,082	61,583	
	⑯環境保全を行う団体などに対する寄付、支援のためのコスト	-	-	1,544	1,668	
環境損傷対応コスト	⑰環境に与えた損傷に対して生じたコスト	-	-	-	-	
合計		86,804	192,949	514,544	492,078	

環境保全対策に伴う経済効果(実質的效果)

単位：千円

効果の内容	2011年度	2012年度
有価物売却	84,031	59,294
エネルギー費の節減	-8,636	-55,844
廃棄物処理費の節減	-34,395	16,484
合計	41,000	19,934

環境保全対策に伴い、当社が得た事業収益や費用の削減・回避を貨幣単位で表しています。収益としては不要物や使用済み製品の売却(有価物化)などが該当。エネルギー費のマイナスは生産増による費用の増加が要因です。

【環境データ】
対象拠点：国内グループ全拠点
対象期間：2012年4月～2013年3月

環境経営の中核拠点、インダストリアルパーク「滋賀事業所」

豊かな自然を守り続ける

滋賀事業所では、広大で豊かな自然環境を生かす取り組みを行っています。「ダイフク環境ビジョン2020」で生物多様性の保全を宣言しており、2012年度から事業所内の生態系調査を進めています。調査の結果、多くの在来種が確認でき、その中には絶滅危惧種も含まれていました。今後、具体的な保全計画を策定し、自然共生型の事業所づくりを進めていきます。



高層研究棟を生活拠点とするハヤブサ



日本最小のトンボ、ハッチョウトンボ



絶滅が危惧されるカスミサンショウウオ

滋賀県下最大級のメガソーラーを稼働

再生可能エネルギーの活用による低炭素社会の実現に向けて、滋賀県下最大級の太陽光発電システム「ダイフク滋賀メガソーラー」(発電容量 4,438kW、年間発電量 430万kWh)を2013年11月から稼働します。地域・社会へ環境教育や環境マインドの醸成に役立つように、施設の一般公開を行ってまいります。



第三者意見



ダイフクグループの「進化」への意気込みを示す

株式会社日本政策投資銀行
環境・CSR部長

竹ヶ原 啓介 氏

CSRレポート2013は、新中計「Value Innovation 2017」の策定を機に、新たなダイフクグループ像を提示しようという「進化」への意気込みをよく伝えていました。ブランドポジション「バリューイノベーション企業」は、高い技術力を武器に社会の信頼や期待に応えてきた企業姿勢をブランド力の源泉として強調するトップメッセージと相俟って非常に説得力があります。また、特集で紹介される内外の魅力的なプロジェクトは、総合的な顧客価値の創出をグローバルに追求する企業姿勢を、時間軸を置いて深みをもたせながら具体的に示すことで、貴グループの方向性を雄弁に語りかける役割を効果的に果たしています。

個別テーマについても、これまでの報告スタイルを踏襲しつつ随所に「変化」を感じさせる要素がちりばめられています。まず、人材への視点は貴グループの報告書の一貫した重要テーマですが、今回、イノベーションの源泉を「人」と「現場」に求め、これをサポートするのがCSRマネジメントであると銘記されたことで、CSR経営の視点が明確となり、これに連なる個別情報に一本筋が通った印象があります。

また、製品・サービスの環境配慮に関して独自のエコプロダクツ認定制度を導入したことに象徴的なように、グループ

環境経営の意義を、環境負荷の低減に留めることなく、ユーザーの生産性改善を通じて社会で実現している環境貢献という視点から強調した点は大変興味深いものがあります。主な認定製品の環境配慮ポイントなどはまさにその表れといえますが、「グローバルに環境経営を推進し、企業価値向上へつなげる」というメッセージ通り、貴グループの環境経営が着実にレベルアップしている様子が伝わってきます。

今後については、多様な取り組みの相互関連性をもう少し前面に出すことにより、社会で実現している価値をより多面的に提示するよう期待したいと思います。例えば、貴グループの技術による節水や省資源化は、ユーザー企業の生態系サービスへの依存度を引き下げ、自然資本への貢献という効果も付随的に伴います。こうした価値を意識することにより、生物多様性の保全宣言やマザー工場である滋賀事業所における生態系調査などの努力がより訴求力を持ってステークホルダーに伝わると考えます。

ステークホルダーとのコミュニケーションはブランド価値を高めるうえで極めて重要です。そのためのツール役を担うこの報告書のポテンシャルは大きく、今後の展開を大いに期待しております。

■第三者意見を受けて

竹ヶ原様、社外第三者のお立場から、貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございます。

ダイフクは、マテハンシステムを通じて、あらゆる分野の生産・流通の課題を解決することで、広く産業界の発展に貢献することを目指してまいりました。そして、この4月から、マテハンメーカーを超えるバリューイノベーション企業へ向けて中期4カ年経営計画「Value Innovation 2017」をスタートさせました。これを機に、「人」と「現場」に根ざしたイノベーションを推進していくとともに、それを原動力とする当社のCSR活動も一層充実させてまいります。

トップメッセージ、特集から個別テーマにいたるまで当社グ

CSR推進プロジェクト

ループの「変化」を感じとっていただけたことは大変嬉しく思います。また、環境面におきましては「エコプロダクツ認定制度」導入による環境経営のレベルアップの評価をいただきました。

今後はこちらご指摘いただいた「多様な取り組みの相互関連性」について当社の社会的価値の訴求力をより高め、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを深めてまいります。

滋賀事業所においては、2013年11月からメガソーラーが稼働を開始します。生物多様性保全に関しても、事業所内に生息する動植物の調査・保全活動や社内外への情報発信を行い、事業活動と自然の共存に努めてまいります。

■会社概要

会社名：株式会社ダイフク Daifuku Co., Ltd.
 所在地：大阪市西淀川区御幣島3-2-11
 設立：1937年5月20日
 資本金：80億2,400万円（2013年3月末現在）
 代表者：代表取締役社長 北條 正樹
 従業員：6,678名（グループ総数／2013年3月末現在）

■財務データ(2013年3月期)

会計年度	(単位:百万円)
受注高	210,990
売上高	202,337
営業利益	8,010
当期純利益	4,439
1株当たり当期純利益(円)	40.12
1株当たり配当金(円)	15.00
設備投資	7,687
研究開発費	6,855

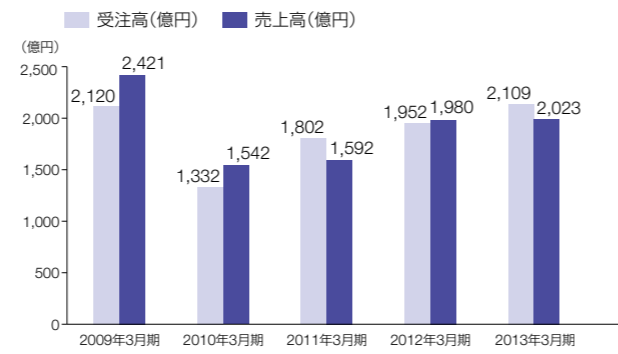
会計年度末	(単位:百万円)
総資産	206,875
純資産	85,685

財務指標	(単位:%)
売上高営業利益率	4.0
売上高当期純利益率	2.2
自己資本利益率(ROE)	5.6
自己資本比率	40.4

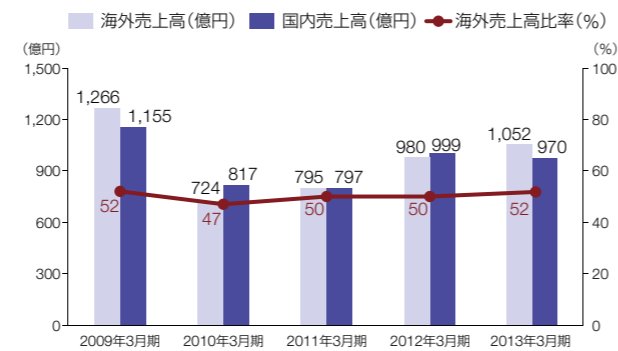
■格付け

格付会社	発行体格付け	短期価格付け
格付投資情報センター(R&I)	A- [安定的]	a-1

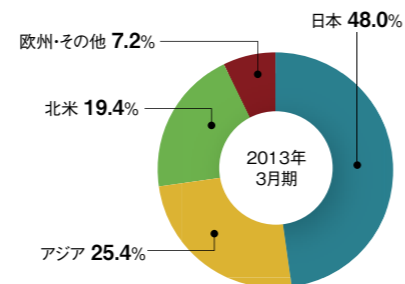
■受注・売上の推移



■国内・海外売上高推移

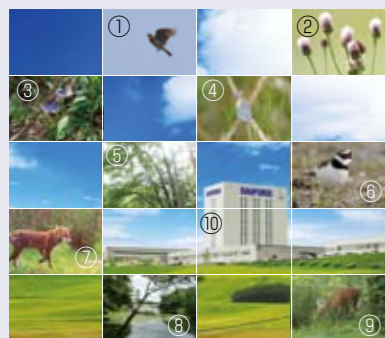
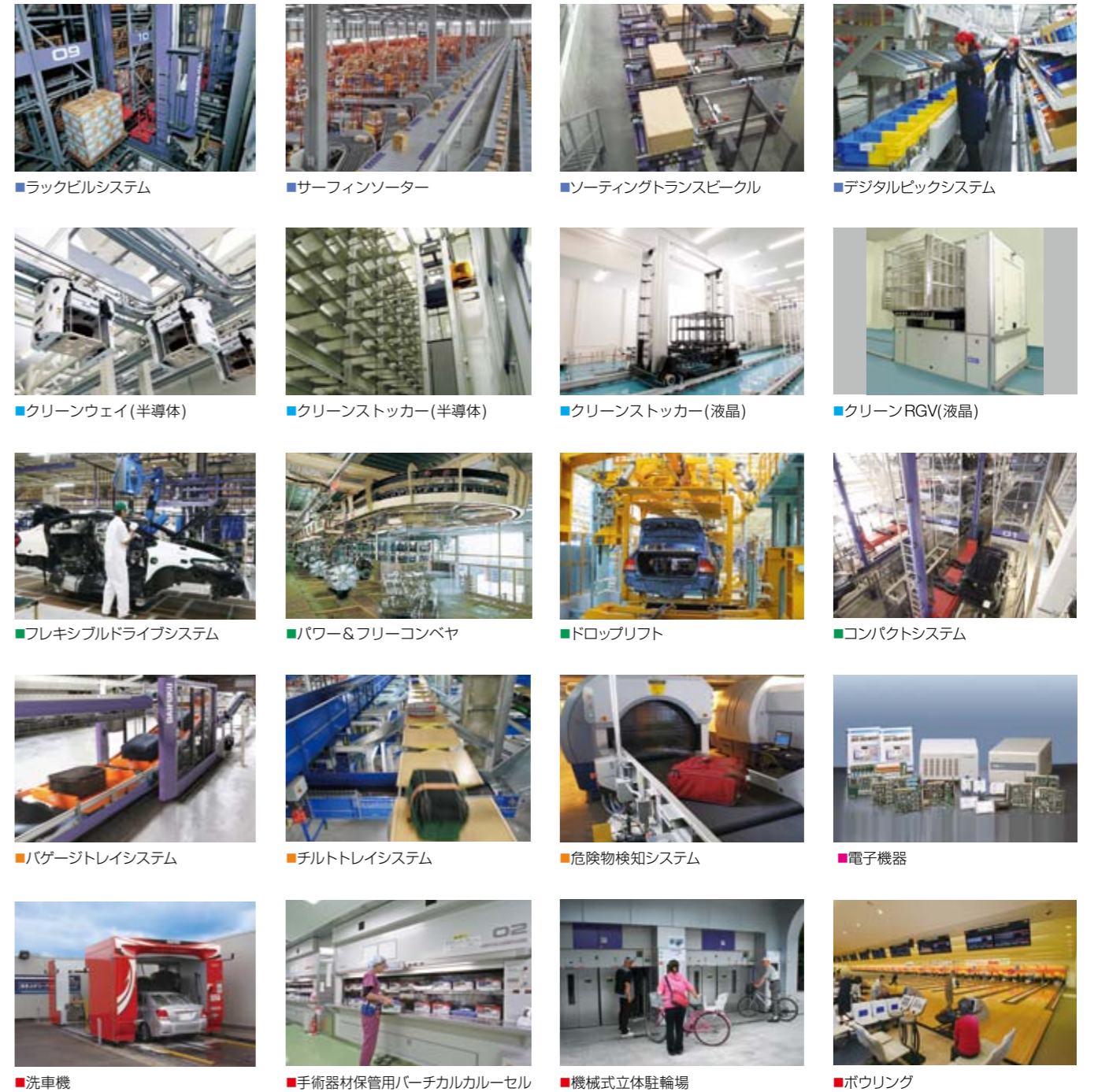


■地域別売上高比率



■主要製品

- 生産・流通向けシステム
- 空港向け手荷物搬送システム
- 半導体・液晶生産ライン向けシステム
- ライフスタイルプロダクツ
- 自動車生産ライン向けシステム
- 電子機器



■表紙写真について

表紙に配した写真はインダストリアルパーク「滋賀事業所」の自然やそこに生息する生きもの達です。当社は生物多様性保全に取り組み、緑豊かな自然とともに信頼されるモノづくりを目指していきます。

- ①ヒバリ ②アザミとジョウカイボン ③ハルリンドウ
- ④ツバメシジミ ⑤コナラ・アカマツの林 ⑥コチドリ
- ⑦キツネ ⑧しゃくなげ乃池 ⑨シカ ⑩高層研究棟

■編集方針

2013年のCSRレポートは、中期4カ年経営計画のスタートにあたり、「バリューイノベーション企業」への進化を目指す当社の思いを込めて制作しました。特集は過去・現在・未来の3つのテーマで構成しました。また、多様なステークホルダーとのかわりや、滋賀事業所をはじめとした環境保全の取り組みも紹介しています。

本レポートはステークホルダーとの良好なコミュニケーションを図るツールとして、オリジナリティ性を求め読みやすく分かりやすいレポートを目指しました。今後さらにCSR活動の質を高めるため、皆さまからのご意見・ご感想をお待ちしております。

2013年9月

■ご意見・お問い合わせ先

株式会社ダイフク
 CSR本部 CSR推進室
 〒105-0014 東京都港区芝2-14-5
 TEL:03-3456-2243 FAX:03-3456-2262
 E-mail:webmaster@ha.daifuku.co.jp